

大阪・関西万博における空飛ぶクルマの 運航の実現に向けた取組について

「空飛ぶクルマ」とは、電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸等の運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段であり、都市部での送迎サービス、離島や山間部での移動手段、災害時の緊急搬送等への活用が期待されている。

新たなモビリティとして欧米や日本企業を中心に機体開発が進んでおり、空飛ぶクルマの実現に向けて「空の移動革命に向けたロードマップ」等に基づき、官民一体となって環境整備等を進めてきた。

大阪・関西万博は、イノベーションの誘発や社会実装の推進のための様々な挑戦の場とする「未来社会の実験場」をコンセプトに、最先端のモビリティ技術を会場内外で実証・導入することで、スマートモビリティを推進、社会実装につなげていくこととしている。

空飛ぶクルマは、そのコンセプトを体現する重要なプロジェクトと位置付けられており、国内外の複数の機体による万博会場周辺の飛行や万博会場内外の二地点間運航を実現することで、空飛ぶクルマが実際に運航される姿を国内外に発信し、社会受容性の向上や更なる事業発展につながることが期待されている。

国土交通省としても、安全性の審査や交通管理のための施設整備等、大阪・関西万博における空飛ぶクルマの運航の実現に向けた取組を進めてきており、今後の空飛ぶクルマの社会実装による「空の移動革命」の実現を目指している。

大阪・関西万博における空飛ぶクルマの各社準備状況

2025年4月3日現在

※今後の機体開発状況等により準備状況は変更となる場合がある。

運航事業者	SkyDrive	丸紅		ANAホールディングス /Joby Aviation	Soracle (住友商事・日本航空のJV) ※日本航空から承継
使用機体	 SkyDrive(日) SD-05 (SKYDRIVE) 〔 航続15km 定員3名 〕	 LIFT Aircraft(米) HEXA 〔 航続25km 定員1名 〕	 Vertical Aerospace(英) VA1-100 (VX4) 〔 航続160km 定員5名 〕	 Joby Aviation(米) Joby S4 〔 航続160km 定員5名 〕	 Archer Aviation(米) M001 (Midnight) 〔 航続160km 定員5名 〕
使用予定ポート	〔中央突堤：大浜港パーティポート〕 	〔夢洲会場：EXPO Vertiport〕 	〔尼崎フェニックスパーティポート〕 	〔夢洲会場：EXPO Vertiport〕 	〔夢洲会場：EXPO Vertiportでの展示〕 
運航形態 運航時期 (各社チャート)	・開幕日での機体展示 ※飛行調整中 ・夢洲－中央突堤間の2地点間 または周回飛行等 ・運航時期：4月（開港日）、 7～8月	・夢洲会場ポート内を飛行 ・運航時期： 4～7月 ※飛行及び展 示について調整中	・会場－尼崎フェニックス間の 2地点間運航等 ・運航時期： 10月 ※調整中	・夢洲会場ポートを拠点に 沿岸周辺エリアを飛行 ・運航時期： 9月下旬～10月13日 （閉会日）	・展示時期：調整中 ・会期後実証運航予定* *2026年内に大阪府堺市域での実証運 航を予定中。

(公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会公表資料より引用)